

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

加茂中学校区	校番 20	福山市立加茂中学校
最終更新日		2021年(令和3年)2月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

○よさ・成果 △課題 ☆今後に向けて

◇前年度学校関係者評価の主な内容

- ・小学校・中学校9年間の学びで、加茂の子を今後とも育てていただきたい。
- ・働き方改革とともに、教育力の維持に努めていただきたい。

児童生徒の現状

- ・1小1中⇒〇中1ギャップは少ない
- △友人との関わりや見方が固定化
- ⇒互いの新たな可能性や成長に気づきにくい
- ・不登校・不登校傾向の児童・生徒の増加
- ・生活面⇒△基本的な生活・学習習慣、規範意識等に課題
- ・学力面⇒△基礎学力の定着・思考力等に課題
- ・体力面⇒小〇「体育の授業が楽しい」92%
- 中△県平均達成率38%

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	小 中	課題発見・解決力 創造力 社会性 考える・伝える・聴く力 見通す・振り返る力 社会性
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	豊かな心と、郷土加茂・福山への愛着・貢献心を持ち、 自律的・協働的に、自らや社会の未来を切り拓いていく子ども	
中学校区として統一した取組等	①豊かなかわり ②必然性のある課題設定 ③見通す・振り返る	

III 自校

ミッション
学校教育目標(下記◎)及び保護者・地域の願い(上記◇等)を、生徒の姿で、具現化する。＝「行きたい・行かせたい」加茂中
◎学校教育目標
豊かな心を持ち、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成 ～未来を切り拓く力を育む～

現状 <生徒><授業> (成果○ 課題△)
<p><生徒></p> <p>○明るく素直で、あいさつのできる生徒が多い</p> <p>△互いに切磋琢磨し、伸びていこうとする意識や、目標を設定し、本気で挑戦したり、他校と競い合ったりする中で、達成感や喜びを味わう・共有する等の経験不足⇒自己肯定感、所属・承認意識等に課題</p> <p>△基本的な生活・学習(家庭学習)習慣、社会性(規範・他者意識・貢献等)に課題</p> <p>△不登校・不登校傾向の生徒が、増加している。</p> <p>△基礎学力の定着や、読解力、「考える・伝える」力、活用(記述)問題への対応力等に課題</p> <p>△男女ともに体力テストにおける県平均達成率が低い。</p> <p><授業></p> <p>○めあて(学習課題)の工夫や繰り返し(ドリル)学習は徹底している。</p> <p>△じっくり考え・書かせるための課題設定や考え、書いたことを基にした意見等の伝え合いそして追記・修正・整理しながら、ペアやグループで考えを広げる・深める場面が指導でききれていない。</p> <p>△めあてに対応するまとめ・振り返りまでの時間が十分確保されていない。</p> <p>△机間指導等による個別の学習成果・課題の見取りと手立てが十分ではない。</p>

育成する力	知識・技能	21世紀型“スキル&倫理観”			
		考える・伝える・聴く力	見通す・振り返る力	社会性	
めざす子ども像	生きて働く知識・構造化された	ステップⅠ (1年)	比較・関連付けて考える →分かりやすく伝える →最初から最後まで聴く	達成すべき目的・目標や 解決すべき課題を見いだす →結果を振り返る	当たり前のことが、少し 我慢してでも、当たり前 にできる＝規範意識
		ステップⅡ (2年)	論理的・科学的に考える →結論・根拠等で伝える →比較・関連付けながら聴く	学習内容・進め方を理解・把握する →過程を振り返る	感謝・思いやりの心を、 ことばや行動にすることが できる＝他者意識
		ステップⅢ (3年)	多面的・多角的に考える →創造的・建設的に伝える →理解・納得・共感して聴く	自分で計画を立てたり、 方法を予想したりする →価値を振り返る	集団生活における目的・ 目標達成、課題解決に向 けて自分の役割を果たし、 心からの笑顔を増やす ことができる＝貢献

教科等	各教科、特別活動(行事、生徒会・学級活動)部・ボランティア活動
研究 主題 内容①②	「考える・伝える」力の育成 ～単元構想等を基に、意図的・計画的に～ ①考える必然性のある課題(比較・関連付け) ②見通しを立てたり、振り返ったりしたことを書く・伝え合う・確かめ合う場の工夫
めざす 授業の姿	? (なぜ・どうして) が! (わかった・できた・なるほど) になる授業

年 目	中期 経営 目標	重 点	分 類	短期経営目 標	目標達成に向けた 取組・指導・評価	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	70% 達成 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	意欲的に学ぶ生徒を育てる	★	新規	<p>・「? (なぜ・どうして) が! (わかった・できた・なるほど) になる授業」のサイクルをつくる。</p>	<p>・「? (なぜ・どうして) ・! (わかった・できた・なるほど) の場の設定した単元構想シートを作成する。</p> <p>・学びを深める振り返りシートを工夫する。</p>	<p>・「? (なぜ・どうして) の場面があった。」 「! (わかった・できた・なるほど) の場面があった。」 生徒アンケートの肯定率90%以上</p> <p>・「振り返りが、学びや普段の生活につながったり、役に立ったりした。」 生徒アンケートの肯定率90%以上</p>	<p>・「? (なぜ・どうして) の場面があった。」は、82.5%、「! (わかった・できた・なるほど) の場面があった。」は、89.2%の肯定的評価であった。</p>	3	2	<p>・生徒が興味関心を持ち、自ら解決したいと思う問いを設定する。</p> <p>・協働学習を通して生徒が達成感を味わう場を設定する。</p> <p>・生徒が学びの価値を実感することのできる振り返りを設定する。</p>	<p>・「? (なぜ・どうして) の場面があった。」は、86.6%、「! (わかった・できた・なるほど) の場面があった。」は、90.8%の肯定的評価であった。</p>	3	2	3	<p>・「? (なぜ・どうして) ・! (わかった・できた・なるほど) の場の設定した単元構想シートを今後も作成し、生徒とともに「面白い」授業を創造していく。</p> <p>・日常的に授業の振り返りが、学習内容の定着や生徒主体の学びに繋がっているかを分析し、改善に努める。</p>
1	社会性を身に付けさせる		新規	<p>・「感謝・感動・思いやりの心」を持った生徒を育てる。</p>	<p>・学校行事の振り返りをさせ、特別活動の授業を通して日常生活とつなげ、行動化に結び付ける。</p>	<p>・行事における生徒アンケートの肯定率 「行動化」90%以上 「感謝・感動・思いやりの心」90%以上</p>	<p>・今年度は、学校行事の内容を大きく変更した。「仲間の意見を大切にして、今できることを自分たちで考え活動を行うことができた。」生徒は、87.5%の肯定的評価であった。</p>	3	2	<p>・行事における肯定敵評価は、数値目標を達成することはできなかった。今後、「加茂祭」を通して生徒が自ら考え、行動化に結び付ける取組を行う。</p>	<p>・生徒会を中心とした生徒が、「加茂祭」の企画から運営まで自ら考え、行動化に結び付ける取り組みとなった。</p> <p>・「仲間の意見を大切にして、今できることを自分たちで考え活動を行うことができた。」が肯定的評価の生徒は、90.8%であった。</p>	3	3	3	<p>・「感謝・感動・おもいやり」を合言葉に、特別活動の授業において、生徒同士の相互評価を行うことで自己肯定感を高め、行動化の振り返りを行うことで日常化を図る。</p>
1	体力を向上させる		新規	<p>・「食べる・寝る・運動すること」で、体力を向上させる。</p>	<p>・基本的な生活習慣を意識した生活を一人一人に身に着けさせる。</p> <p>・体育科の授業と体育的行事の連携を図り、運動量を増やす。</p>	<p>・残菜率を下げる。(2019年度5.7%) ・12時までに寝る生徒を95%以上する。</p> <p>・体力テストの県平均以上の種目を増やす。(2019年度38%)</p>	<p>・残菜率は、6月3.3%・7月4.2%・9月3.9%と昨年度より下がっている。</p> <p>・12時までに寝ている生徒は73%であった。</p> <p>・体育科の授業と体育的行事を学年別実施する等の工夫を図り、運動量を増やす取組を実施した。</p>	3	2	<p>・生活習慣を整えるために「早寝・早起き・朝ごはん」そして給食を完食するように学校・保健だよりを通じて啓発活動を継続する。</p> <p>・加茂学区駅伝・マラソン大会への取組を通して体力向上を図る。</p>	<p>・残菜率は、10月4.2、11月4.3、12月3.73月から9月までのどの月も昨年度と比較しても下がっている。</p> <p>・12時までに寝ている生徒は、63%と前回より下がっている。</p> <p>・駅伝・マラソン大会では全生徒が参加する中で、実施することができ、体育科の授業と体育的行事を結びつけることができた。</p>	3	3	3	<p>・「早寝・早起き・朝ごはん」そして給食を完食する取り組みを継続していく。</p> <p>・今後も体育の授業で体力向上のための補強運動を増やしていく。</p> <p>・駅伝・マラソン大会に向けて、昨年度の記録をもとに数値目標を設定するなど、目標を意識した練習を授業の中で行っていく。また、学校行事を集団づくりの柱の一つとして、位置づける。</p>

4	保護者・地域から信頼される学校	継続	<p>・「加茂中学校に通わせて良かった。」という保護者満足度を高める。</p>	<p>・生徒・保護者に寄り添う指導を行う。 ・些細なことでも、その日に家庭連携する。 ・タイムリーに情報発信する。(各種便り、HP等)</p>	<p>・「加茂中学校に通わせて良かった。」という保護者アンケート肯定率を85%以上にする。</p>	<p>・「加茂中学校に通わせて良かった。」という保護者アンケートは、94.3%の肯定的評価となった。</p>	3	4	<p>・学校ホームページ・学校だより等を活用し、保護者に情報提供を行う。 ・家庭との連携を密に行い、自由参観日を今後も設定し、開かれた学校づくりに努める。</p>	3	4	3	<p>・学校ホームページ・メール配信、学校・学年・学級通信でのタイムリーな情報発信と担任が中心となって行っている家庭連携が、保護者満足度を高める取り組みとなっている。今後も機を逃さない連携を続けていく。 ・今年度、コロナ感染防止策として自由参観日(3日間AM)を2度設定し、保護者に普段の学校の取り組みを公開した。来年度も開かれた学校への取り組みを通して、信頼される学校づくりをしていく。</p>
2	小中連携を密にする学校における組織マネジメント	★継続	<p>・中学校区の課題を小中連携し、取り組むシステムをつくる。 ・校内の組織力を高め、業務改善の取り組みを進める。</p>	<p>・小中の連携を密にし、課題を共有し、改善を図る。 ・業務改善の意識を高めるために、各分掌で「分掌行動計画シート」を作成し、学期末に進捗状況を報告する。</p>	<p>・中学校区推進協議会と課題に即した4部会を年4回以上行う。 ・「分掌行動計画シート」による学期末の進捗実施率を90%以上にする。 ・仕事にやりがいや充実感を得られる教職員を95%以上にする。 ・時間外勤務時間が45時間を超える教職員を0人にする。</p>	<p>・中学校区推進協議会と課題に即した4部会を代表者会議に変えて実施し、中学校区の課題を共有・改善に取り組んでいる。 ・仕事にやりがいや充実感を得られる教職員は83%である。 ・時間外勤務時間が45時間を超える教職員は平均8人である。</p>	3	2	<p>・中学校区推進協議会は、ブロック代表者で会議を継続し、新1年生の生徒の実態交流を綿密に行い、小中連携を推進する。 ・各主任を中心に、先を見通した仕事内容への改善を継続的に取り組む。また、計画的で軽重をつけた仕事の進め方について、指導していく。</p>	3	2	3	<p>・今後も、中学校区推進協議会では、校区課題を4点に絞り、全教職員で課題を共有し、継続的に取り組んでいく。 ・「分掌行動計画シート」を作成し、「いつまでに・何を・どこまで」するか、業務改善の意識を高め、実効性の高いものにしていく。そのことで45時間を超える教職員を0にしてい</p>

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。